

日

校番	202	学校名	広島観智学園中学校	校長氏名	林 史	全・定・通	
----	-----	-----	-----------	------	-----	-------	--

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の英語能力、グローバル化対応能力に関する指標が具体的である反面、主体的行動、地域課題解決等に関する目標については基準が分かり難い部分もある。</li> <li>・学校経営計画に基づき、バランスよく達成目標の項目が構成されている。目標値の高さから、「学びの改革」を先導する役割を担うことの意識の高さが汲み取れる。</li> <li>・学校経営目標の具体化が適切である。</li> <li>・複数の学校の評価シートを拝見する機会があるが、達成度をみとることの可能な行動目標を表現できていない学校が少なくない。また経営目標・達成目標・評価指標に一貫性を書くところも少なくない。貴校の目標は、目標記述の妥当性と一貫性において、適切である。</li> <li>・「地域連携」の評価指標は、学校運営協議会の委員の回答に依存することなく、生徒の活動回数や住民へのアンケート調査の結果で評価しても良いのではないか。</li> <li>・「バイリンガルでの発信」の評価指標には、フェイスブックやホームページを使った生徒の主体的な発信・働きかけの回数やモチベーションなども加えるべきではないか。</li> <li>・目標設定が2年目に達成できるものとなっておらず抽象的になってしまっている。最終的な目標(目指す姿)と中長期・短期に目指す目標(具体的)を分けて設定するべきではないか。</li> <li>・バイリンガルを目指して英語力を目標におくことはよいかもかもしれないが、国際バカロレアの教育に期待するところは語彙力のみならず、例えば、地域の課題や世界的な問題を発見し解決に取り組み、それを人々に向けて発信することができる人物なのではないか。</li> <li>・国際バカロレアと学習指導要領を両立したカリキュラムとそれを授業の中でどれだけ実践できたか、概念教育を授業の中でしっかり取り入れていくことができたかが重要。察がある意味を考えると学校の授業時間のみならず学校時間外の過ごし方の目標の設定も必要になってくると考えている。</li> <li>・適切だと思います。IB校として、それぞれの目標や指標にATL, SA, グローバルな文脈という言葉も含めると更にいいと思います。</li> <li>・特に問題なし。</li> <li>・適切に設定されている。学校のミッション、ビジョンとも適合した目標になっている。</li> </ul>
目標の達成状況の評価の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実績値が目標値を超えた項目についてもB評価となっており、評価にメリハリが見られない。特に、生徒の取組が反映される項目については「目標達成を評価する」という姿勢で臨んでもらいたい。</li> <li>・どの項目についてもデータに基づいて適切に評価されている。</li> <li>・評価指標に基づいて適切に評価できている。</li> <li>・「学習習慣の確立」の評価が、著しく低い。目標設定に問題があるのか、指導に問題があるのか、学習・居住環境に問題があるのか、見極めが大事である。できるだけ過度の負担を課さないように、リラックスできる時間の確保が肝要と思われる</li> <li>・目標設定が抽象的になってしまっているため、正しい評価指標が置いていないと思っている。ほとんどの項目について、目標と評価指標にギャップがあり正しい評価ができていないのか疑問を感じている。</li> <li>・ほとんどの項目がアンケート調査の結果や労働時間・有休取得数(これ自体は問題ないが、目標を具体的に書くべき)が自動的に評価として反映されるようになっているが、抽象的な目標に対するアンケートにどれだけ実効性があるか疑問がある。</li> <li>・目標を抽象的な目指すべき姿からスタートして、無理のない現実的な範囲でより具体的な短期的な目標に落とし込んだ上で評価指標を置くべきではないか。</li> <li>・概ね適切だと思います。生徒が概念理解をしているかどうかを客観的に把握するのは難しいことであり、生徒のアンケートだけではうまく測りきれないと思いますが、アンケートではどのような質問がされたのでしょうか？</li> <li>・自己評価における「B」、「C」評価の境界線はどこにあるのでしょうか(何%を基準としているのか)？「71%」で「C」評価は少し厳しすぎるのではないかと思います。できている部分に厳しすぎる目を向けると、かえって本来改善すべき部分への力の集約度が薄れてしまうのではないかと感じました。</li> <li>・すこし厳しく過少に評価されていると感じる。どの項目も真摯に評価されているが過小に評価されていると感じた。全体的に初年度なので課題はまだまだあるとは思いますが、目標に比べて実績が上回っている項目が多く一定の評価はできると思う。</li> </ul>
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開校1年目のため業務に不慣れな部分もあると想定されるが、教職員の勤務体制等、内部管理に関する取組が十分でない。</li> <li>・目標達成に向けて、進捗状況を適切に確認し取組がなされている。</li> <li>・適切に取り組んでいる。</li> <li>・地域に関わりつつ、世界の問題に関与していくような取り組みを期待したい。継続的に子どもの様子を観察しているが、依然として観智学園の生徒が、いまの世界のどのような現象に「いかり」を覚えているのか、まだまだ把握できていないところがある。</li> <li>・地域への関わりやグローバルな発信が、「きれいごと」や「やらされ」にならないように、真に生徒が Risk taking したくなる出来事を見出してもらいたい。「バランス」や「信念」は、日本の子どもはたいてい高くなりやすい。Global Justice の時間を通して、「格差」に関する子どもの本音が出てくるようになった。格差は努力不測の産物なのか、私たちに見えていない世界はないか、もっと引き出し、行動させる活動を構想してほしい。</li> <li>・国際バカロレアの教育を日本のカリキュラムの中で落とし込んでいく上で、概念教育の考え方をぜひ取り入</li> </ul>

		<p>れて欲しい。また、特定の科目に限定することなく教科を横断して、同じ概念の上でアプローチ・見方を変えていくということを取り組んでいくべき。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒たちが寮で過ごす時間も非常に大切に、国際バカロレアでは生徒の自習も非常に多くの時間を要する。よって、しっかりと寮に滞在している時間を有効的に活用できる取り組みを実行していくべきではないか。寮があることが、生徒にとっても学校にとっても強みになるよう、しっかりと寮にいる時間を学校側で見ていく体制を早急に整備することが重要である。</li> <li>・適切だと思います。</li> <li>・具体的な行動計画も策定されており、問題なきものと存じます。</li> <li>・適切に取り組んでいただいている。学校としては初年度なので種々の問題が発生しながらの状況で当初設定した目標に向けて全力で取り組んでいただいたのは理解している。</li> </ul>
<p>評価結果の分析の適切さ</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回評価時との比較による分析が多いが、今後はもっと分析に利用できる指標を増やしていくべき。</li> <li>・全寮制という特殊な環境の中で目標数値のみを追求するのではなく、根本的な要因や手立てを、より具体的に生徒に寄り添って考えていく必要がある。</li> <li>・エビデンスに基づいて、(未)達成の原因をおおむね分析できている。</li> <li>・「全ての教科において概念理解を深める質の高い授業が展開されている」の評価指標が気になっている。質問紙において、生徒には実際どのように尋ねているのだろうか。特記事項の欄には「探究的な学習の推進」について記載されている。「概念理解」を深める授業と「探究的な学習」は、必ずしも同じではない。</li> <li>・教師の間(研修)だけでなく、生徒とも「概念理解を深める」ことの意味を共有しておく必要があるだろう。そうしないと、適切な評価が行えない。なお、貴校の教育理念として、概念は「理解」するべきものか、概念を実社会に「活用」されるべきなのか。この点の論点整理もしたうえで、カリキュラムと授業の改善を期待したい。</li> <li>・適切な目標と評価指標が設定されなければ、適切な結果の分析は難しいと考えている。来年度に向けて、3年目で達成すべき具体的な指標を置くべきではないか。</li> <li>・抽象的な問いに対するアンケート調査では現実的な評価結果は出てこないで、初めの設定自体をもう一度見直していくべき。さらに、授業内での取組についても具体的に評価・分析が実行できるように考えて欲しい。また、学校時間外での取組についても評価できる仕組みを置くべき。</li> <li>・「概念理解を深める学習」について、ポイントが下がったとはいえほぼ変わらない程度だと思います。分析では「本質的な問いの精度」と「教員研修」に言及がありますが、本質的な問いの精度を上げる研修や手法などは開発されているのでしょうか？</li> <li>・「目標の達成状況の評価の適切さ」でも申し述べました通り、謙虚に結果を分析することはもちろん必要ではありますが、肯定的に評価すべき部分は肯定すべき部分としてもっと前面に出されてもよろしいのではないかと存じます(現場の先生方のモチベーションにもつながるかと存じます)。</li> <li>・適切に分析されている。ただ、生徒アンケート調査の結果による分析が多く、生徒自身がアンケートに対してどこまで真摯に回答しているのかが不明。特に 39 件の回答結果だと件数の少なから傾向が判断しにくい(生徒数が少ないため仕方が無いことだが)。客観的な指標がとれるものはそちらにシフトできるようにして欲しい。</li> </ul>
<p>今後の改善方策の適切さ</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務管理等の内部管理に関しては、個々人のマネジメント向上や意識転換だけでは限界がある。用務員の導入や寮運営の一部委託等も検討すべき。</li> <li>・生徒自身が、将来像に対する期待ばかりで受け身になり、積極的・自発的に学習する傾向がないのであれば、その要因を追求し改善すべき余地がある。</li> <li>・「学校生活におけるルール遵守の意識は高まりつつあると考えられるが、毎日の生活の場である寮における意識についてはさらに高めていく必要がある」は、さらに検討してほしい。</li> <li>・寮生活で規範意識を高め、ルールを厳守させるのはもちろんのこと、ルールを自分たちで作るかえ、より快適で精神的にうつろげる生活、他者に不快を与えない生活、が営める環境づくりも構想させる必要もあるだろう。もともと、そういう意図で作られた評価項目と解される。「主体的に規律ある生活」のために、自分たちのルールとして必要なことを、粘り強く主体的に考えるための対策も、あわせて講じていただきたい。</li> <li>・「時間外勤務が多い職員はある程度固定されている」ことが分かっているのであれば、より一層、業務量の平準化や協働のしくみづくりを検討して欲しい。「意識」や「文化」の醸成だけでは、限界があるのではないか。</li> <li>・もっと教育の中身について改善方策を建てるべきだと考えている。国際バカロレアの概念教育の授業内での実践や同じコンセプトで多教科に渡って実践するかなど、教育の中身を詰めていって欲しい。</li> <li>・学校の授業時間だけでなく、寮にいる時間をどう有効活用していくのか、生徒が寮にいる間に何を取り組むべきなのか、それを学校側としてどう管理し支援していくのかなど、学校時間外の支援の体制を早急に構築していくべき。</li> <li>・生徒たちの自主的な学びを引き出して、それを学校時間外であっても支援していく仕組み、例えば、寮内にいつでも疑問をぶつけられる先生がいる等、どういったことができるのか考えてほしい。</li> <li>・概ね適切だと思います。</li> <li>・「学年班長会」について、生徒が計画的に開催しているのか、それとも教員主導しているのでしょうか？ また、実際にどのようなことを「議論—決定—実行」しているのでしょうか？</li> <li>・「生徒の自主的・主体的な学習」について、生徒自信が学習者像の定義を試みたり、どのような場面において期待されるすがたなのかを考えて生徒間で共有したりするといったことだと思います。</li> <li>・「目標学習時間の達成率」について、生徒自身が必要と考える学習量や質的な到達度に対する達成状況を見取ることがより大切だと思います。質的なものを上げるには各授業のユニットで設定されている「総括的評価課題」や「探究の問い」を工夫するといったことだと思います。生徒の興味・関心を引くものであれば、生徒が自主的に時間を割いて学習したり、探究したりするようになります。また、これらについて思考したり、友達とディスカッションしたりする時間も学習量としてカウントするといったことだと思います。生徒達の日常に学習が広がるようなイメージを教員も生徒も持てることだと思います。</li> <li>・「生徒と向き合う時間」について、時間の確保と個別指導のあり方を学校全体で共通理解することが大切だと思います。物理的に時間を増やすためには、時間割や時程の一部を変更するのがいいかもしれません。</li> </ul>

		<p>ま、個別指導については、研修の中でそれぞれの先生方の実践を共有するといいいと思います。特に問題ございません。</p> <p>適切な改善策が検討されている。課題の本質をとらえ改善策を検討されている。</p>
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年の生徒の増加に対応できるよう、余裕を持った体制づくりを心掛けてもらいたい。</li> <li>・学校としてのミッション・ビジョンについて、教職員・生徒と共に共通認識を持ち、意識の高さがうかがえる。一方で、教職員自身のワークライフバランスに課題がある。</li> <li>・すべての項目で適切に対応できている。</li> <li>・高すぎる抽象的な目標設定に対してアンケート調査や労働時間等でオートマチックに評価が決まってしまうのは疑問を感じる。より有効的な目標設定と評価指標とするべきではないか。一番は、お預かりしている生徒たちに対して、適切な教育環境を学校時間、学校時間外ともに提供していくこと。そのために今いる場所を認識し、これからより良くするべき課題を見つけていくことではないか。</li> <li>・評価が悪いからダメということではなく、より良くしていくためにはどういったことが学校現場・教育委員会双方求められているのかを知ることが重要である。</li> <li>・全体的に厳しい評価となっていたと思いますが、開校一年目ということで想定外のことがたくさんあったと思います。前例のない学校づくりという大きな挑戦をされている叡智学園の皆様の御苦勞と御尽力に敬意を表します。2年目も引き続き Learning community が更に成熟し、IB 認定校となることを期待してします。</li> <li>・「信念を持つ人」「バランスのとれた人」につきましては、各ガイドブックにおける定義も大切ですが、実際の学校生活においてどのような行動や姿勢がそれとして評価されるのかという部分を生徒たち自身に項目化してもらい、それを基に達成度を測っていくというやり方もあろうかと思いました。</li> <li>・初年度なので当初予想していなかった問題が種々発生し大変な状況だったと思う。それにも関わらず真摯に当初設定した目標にむけ取り組んでいただいたのを感じている。</li> <li>・学校には感謝している。だからこそワークライフバランスと生徒たちとの時間をよく考えて行っていただきたい。</li> <li>・また、食事に関しては地産地消も考慮する必要があると思うが、品数や量、味についても業者との話し合いを行っていただきたい。</li> </ul>